

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 大垣北高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和6年11月7日 (木) 13:30~15:30
- 3 開催場所 大垣北高等学校会議室
- 4 参加者
 

会長	田村 弘司	元岐阜県教育委員会教育次長 元岐阜県高等学校長協会 会長
委員	安藤 光男	大垣国際交流協会 常務理事
	原田 理人	岐阜協立大学 学長
	牧岡さつき	大垣市男女共同参画推進室 室長
	種田千佳子	(株) 種田石油店 代表取締役社長
	上野 和幸	本校育友会 会長
<欠席者>		
副会長	兒玉 榮一	本校同窓会 会長
委員	伊藤三枝子	清流の国ぎふ女性防災士会 会長
	堤 俊彦	大垣市体育連盟 会長
	山田 治美	大垣市立北小学校 校長
学校側		
	小野 悟	校長
	寺倉 新一	事務部長
	曾根 章好	教頭
	澤田 尚子	教頭
	田中 卓哉	教務部長 (教務主任)
	松野 智博	進路支援部長 (進路指導主事)
	中島 啓	生活充実部長 (生徒指導主事)
	足立 郁子	研修主事 (北会代表)

## 5 会議の概要 (協議事項)

## (1) 令和6年度 学校評価アンケートの結果について

意見1：全体として、概ね大きな問題はない。これを糧に引き続き推進していただく。学校が中心となり情報やチャンスを生徒に提供して、生徒を啓発してほしい。

意見2：学校独自項目について若干ではあるが、すべて数値が下がっているが、その理由は何か分析できているのか。学校として、改革的に進めていくためのアンケートであるならば、アンケートを実施する前に、この評価の結果はどうあるべきかを決めておくことが大切である。例えば、A、B、Cと回答がある場合、CよりもB、BよりもAの数値が上回っていることが望ましいが、目標とするレベルはどこにするのか、例えばA、B合わせて80%以上というように基準を予め決める必要がある。目標なくして改革は進まない。改革をするときはギャップが必ずあり、ギャップを埋めるかが必要となる。

読書をする生徒が減っている現状について、社会において、DX化スマート化が進んでいる以上、この傾向は止まらない。今後もさらに本は読まなくなる。画像や動画のほうが文字情報より理解が進むのは確かである。タブレット端末はツールであり、使用を目的化してははいけ

ない。教育としてどうあるべきか真摯に議論することが必要である。

⇒ アンケート結果について数字の読み方や分析は、教員として弱い部分と考えている。研鑽を積んでいきたい。生徒は、想像以上に本を読まなくなっており、書く力も落ちてきているようだ。教育も社会の状況が大きく変わっていく中、指導の在り方及び生徒にどのような力を付ける必要があるか考えていきたい。

意見 3 : アンケートを実施した時期はいつか。

⇒ 昨年度も今年度も同時期である。

意見 4 : アンケートの項目について、保護者であれば、アンケートも解答できると思うが、委員として学校の指導の中身を問われてもわからないことがある。設問は絞ったほうがよい。また、減らすことができなくとも、アンケート内容が委員にもわかるようにするとよい。

⇒ 学校から委員の方に学校の様子を丁寧に説明することが前提であると県教育委員会からも求められている。

意見 5 : 図書館の蔵書について、図書館が狭いと感じた。本をしっかりと読もうという子には目に触れる本が少ない気がする。特に外国文学の書籍が少ない。

⇒ 外国文学は蔵書としてはある。本の種類について、生徒が手にしやすいものが多い状態となっていることが想定される。

## (2) 高等学校に期待される社会的役割等 (スクールミッション) (案) について

意見 6 : 大変良いと思う。パンフレット等や県のホームページなどにも掲載するのか。

⇒ スクールミッションは公表されることになっており、県のホームページにも掲載される。各学校のパンフレット等への掲載については、現時点では定まっていないが、学校のホームページにはスクールポリシーと合わせて掲載する。

意見 7 : 大学も同様にスクールミッションがある。今後どのような学校になりたいか、どんな人に来てほしいか等、なかなか決めきれないところもある。スクールミッションを踏まえ、教育の内容に落とし込む必要があり併せて教員の努力が必要である。

意見 8 : スクールミッションは誰に見せるものか。

⇒ 基本的には設置者、つまり教育委員会が高校に示すものである。

意見 9 : 文面について西濃地域のことを最初に持ってきたらどうか、「国内外の分野で活躍する～」という文言を最後に入れてみたらどうか。

⇒ スクールミッションのフォーマットとして、最初の一文がこれまでの位置付けを示し、最後の文面は育てるべき生徒像を示すというフォーマットがある。

意見 10 : 文章を読むとき最後の一行が大切になってくる。「挑戦者」という言葉は妥当か。人材育成と捉えるか。

⇒ 学校においても挑戦者の部分を一番議論した。リーダーという文言も考えたが、最終的に現在の案とした。欠席者も含め、来週の始めまでに意見がほしい。

意見 11 : 決定した後、見直しの機会はあるか。

⇒ 見直す具体的なタイミングはわからないが、定期的に見直すものではなく、一定期間は変わらないものと考えている。

## 6 会議のまとめ

学校評価アンケートの結果とその分析について学校側より説明し改善案を示した。各委員からアンケートそのものや分析の方法について貴重な意見が得られた。

「高等学校に期待される社会的役割等 (スクールミッション)」の策定に向けて、第1回学校運営協議会にて得られた意見等をまとめ、委員に原案を示し、概ね賛同を得られた。その後の意見照会においても、特段の意見が出なかったため、原案を学校案として、教育委員会事務局に提出することとする。